

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 1月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	4270300447
法人名	N P O法人しまばら
事業所名	グループホーム 野の花
所在地	長崎県島原市江里町乙2346-1 (電 話) 0957-61-9721
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成21年 1月 16日

【情報提供票より】（平成20年12月20日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	12 人
常勤 9人, 非常勤 3人, 常勤換算 3.2 人	

（2）建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	22,330	円	その他の経費(月額)	0	円
敷金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円		昼食	円
	夕食	円		おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円				

（4）利用者の概要（ 12月 20日現在 ）

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低 73 歳	最高 95 歳		

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人城内会 八尾病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

島原の大自然に囲まれたホームはハード面だけでなく、閉塞感のない、ゆったり広々としたホームである。2ユニットであるが、日中は自由に行き来でき職員も利用者も全員が顔見知りで大家族のような暮らしぶりである。職員はホーム理念の「喜誇心体」をしっかりと理解し家庭的であることを前提に、各々介護目標を守って介護を行っている。これは施設長・管理者の介護従事者に対する研修の必要性・向上心をのばす方針や介護の方向性が職員に浸透しているからである。家族へは状況報告を行い、介護計画書作成時には意見交換もなされている。またより細かな意見を出してもらうためにアンケートを取り入れている。地域から見守られるだけでなく、情報発信・相談など、より強い地域密着型ホームになっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 外部評価の結果については、スタッフ会議で報告し、全員で検討している。改善点のケアプラン会議録をケアプランに生かしやすいよう改善されている。自己評価や外部評価は、管理者も職員も意義あるものと理解し、内容も把握している。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 自己評価の話し合いは全職員でしているが、記入は管理者が行っている。今後は職員も関わられるよう、研修のテーマなどに取り上げ、職員も分担して記入されることを期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 2ヶ月に1回、利用者代表、家族代表、町内会長、市職員、ホーム代表者、管理者の参加で開催されている。行事報告や外部評価の結果報告、ショートステイの案内等、状況報告を行い意見交換し、結果をファイル化している。全職員も周知しサービス向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 利用者の近況報告は、家族の訪問時に必ず話す時間を持ち行っている。遠方の家族には電話連絡を行っているが、介護計画変更前には面談できるように日程調節を行っている。家族アンケートを年1～2回実施し、課題があれば家族と直接話し合っている。申し送りノートに記入し全職員で改善に向け検討し、支援に活かしている。外部苦情相談窓口も重要事項説明書に明記してある。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 事業所主催の夏祭りには、家族と地区の住民が大勢参加して、子供から大人まで楽しみながら交流している。地区の小学校とも交流があり、授業の一環として昔の遊びや、合唱をしたりして触れ合っている。

2. 調 査 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「喜誇心体」という開設当初からの理念を作りあげ、共に「喜び」支え合い「誇り」を大切に「心」と「体」の力を発揮しながら、暮らせる家庭的な場を提供すること。地域に根ざし助け合いの精神のもと、すべての人々が健やかに暮らせる地域社会つくりと福祉の増進に寄与すること。となっており、当初より地域密着が盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月のミーティングを利用し、管理者は職員に、常々理念の定義を問いかけ、職員もポイントをしっかりと掴んで理解しており、日々念頭において実践に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所主催の夏祭りには、家族と地区の住民が大勢参加して、子供から大人まで楽しみながら交流している。地区の小学校とも交流があり、授業の一環として昔の遊びや、合唱をしたりして触れ合っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価は、管理者も職員も意義あるものと理解し、内容も把握している。外部評価の結果については、スタッフ会議で報告し、全員で検討している。改善点のケアプラン会議録をケアプランに生かしやすいよう改善されている。自己評価の作成初期段階に職員は関わっていない。	○	自己評価の話し合いは全職員でしているが、記入は管理者が行っている。今後は職員も関わられるよう、研修のテーマなどに取り上げ、職員も分担して記入することを期待したい。

グループホーム野の花

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、利用者代表、家族代表、町内会長、市職員、ホーム代表者、管理者の参加で開催されている。行事報告や外部評価の結果報告、ショートステイの案内等、状況報告を行い意見交換し、結果をファイル化している。全職員も周知しサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	島原市介護保険課、福祉課、保護課より研修や介護情報などの資料の提供など連絡を取り合っており常に交流がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の近況報告は、家族の訪問時に必ず話す時間を持ち行っている。遠方の家族には電話連絡を行っているが、介護計画変更前には面談できるように日程調節を行っている。金銭管理も毎月報告し、確認印を受けている。遠方の家族へはホームたより（たんぽぽ）とともに郵送している。必要があれば、その都度話し合いの場を設けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを年1～2回実施し、課題があれば家族と直接話し合っている。申し送りノートに記入し全職員で改善に向け検討し、支援に活かしている。外部苦情相談窓口も重要事項説明書に明記してある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者をユニットで分けず、職員全体で利用者に関わり、異動や離職があっても他の職員がフォローし、馴染みの関係を大切にしており、ダメージを防ぐ配慮をしている。		

グループホーム野の花

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の法人内の勉強会も多く、希望のテーマも取り入れてある。外部研修も口腔ケアや感染症防止等の医療分野や介護実践等、幅広く受講している。受講者の資料はまとめ報告があり、職員同士で学びあっている。施設長、管理者から職員のレベルに応じた研修を促すこともある。新人職員に対しては、しばらくリーダーが付き、場面場面で指導している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は地域の同業者とソフトボール、ボーリングやイベントを通じて交流を持ち、お互いのホームへ見学に行き来し、サービスの質の向上へむけて参考にしている。また勉強会の機会も多くある。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に至る経緯は、病院からの紹介や家族からの相談であり、本人と家族が見学、面談を重ね徐々に馴染めるようにし、また職員は情報を共有し対応している。家族がホームに泊まったり、利用者が一時帰宅したりと各人に応じて柔軟なサービスを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常の会話の中や料理の時など、利用者から昔のしきたりや方法を自然な会話の流れの中から、教えてもらっている。例えば料理の味付け、盛り付け、梅干、干し柿作り等、家事の知恵をもらいながら、一緒に行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護度の軽い利用者が多いので、希望や意向はよく聞くことができる。言葉に出しにくい利用者は、筆談や顔、手の表情等で意向を汲み取っている。またアンケートを取り、食べたいメニューや行きたい場所、したい事を職員が把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画は毎週の介護ミーティングで行われている内容を踏まえ、ケアプラン会議が行われ作成されている。介護計画の見直し時期を月の便りで家族へ知らせ、面接日時を約束し、本人や家族等の意見を充分に取り入れている。また医師の指導がある場合は取り入れている。その上で計画を立て確認を取っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に見直しを行い長期で6ヶ月の見直しをされている。介護日誌の入力画面にケアプランの実践確認を日々行っている。週に1度、介護ミーティングを開いており、こまめに利用者の変化や状態をパソコンに入力し、全職員が把握している。必要に応じその都度、家族等と相談しながら見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や墓参り、法事の参加、行きつけの美容院や自宅への送迎等も行い、利用者の希望に沿って柔軟に支援している。		

グループホーム野の花

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は入居前からのかかりつけ医を受診し、職員が同行支援している。検査等必要な時は家族が同行し、適切な医療を受けている。歯科の往診もあり、口腔ケアにも力を入れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する方針は、入居時に重要事項説明書に明記されており、家族に同意を得ている。変化に応じて家族、かかりつけ医、関係者と充分話し合いを持って、職員にも指針の説明がされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の個人情報の守秘義務は契約書に明記しており、常時厳しく注意している。家族に個人情報保護法遵守の同意書を頂き、個人情報の書類も事務所内の所定の場所に保管され、パソコンのデータ管理、ウイルス対策も十分にされている。利用者への声かけ等プライバシー保持には充分気を配りながら支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせてゆっくりと支援している。利用者の希望はパソコン入力し、全職員が共有し意向に沿った支援をしている。		

グループホーム野の花

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルやこたつでの好みの場所で食事をする事ができ、職員も一緒に食事を取りながら支援している。またできる利用者はすすんで台ふきや配膳、食器下げ等手伝っている。職員と盛り付けの工夫をしたり、たまには外食にも出かけ、食事を楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者に朝から希望を聞き、入りたい時に入浴できるが1日おきに入浴している利用者が多い。入浴拒否がある場合は時間をおいたり、声かけの職員を代えたりして誘導している。また季節により、柚子湯、菖蒲湯も楽しむことができ、お湯の交換も適宜されている。シャワー浴、清拭、足浴、陰洗は24時間対応できる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望で編み物、縫い物、折り紙、ドリル、カラオケ、ビデオ鑑賞、風船バレー等、自由に楽しんでいる。タオル干し、台拭き、配膳等それぞれの役割を担い張り合いにして、毎日過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎朝軽い体操の後、ホームの外庭を散歩し、車椅子の利用者も体調に合わせ、外気浴をしている。買い物の希望もワゴン車にて対応できている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関もドアも鍵はかけていない。外に出たがる利用者には、常に見守り介助し、万一の場合も消防、自治会等地域の協力連携ができている。		

グループホーム野の花

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署立会いの避難訓練を利用者、地区住民、消防団の参加で実施している。月1回、機器の点検とビデオによる防災確認も行われ、自動火災報知機、スプリンクラー等完備されている。避難誘導マニュアルや連絡網も見やすい所に貼ってある。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算されたメニューで食事量、水分量もチェック表で把握され、お茶タイムを設け、こまめに水分補給できるよう支援している。どうしても体質に合わない食材があれば、別の食材も適宜準備されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花が生けてあり、居間には利用者の手作りの壁絵や写真が飾られ、テレビの音も会話を妨げることなく、のんびり穏やかな雰囲気でごさせている。トイレにはドライフラワーの芳香剤があり、気配りされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自宅から自由に持ち込まれた箆笥、ソファ、仏壇、テレビ等があり、一人ひとり好みの部屋作りになっている。洗面所とトイレ付きでできる所は掃除も自分で好きなようにし、後は職員が行い、居心地よく過ごせるよう支援している。		

※  は、重点項目。